

しゃっちょうは行く!

46

Broaden your horizons⁴⁶ ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。年が明けて、国家試験の勉強も佳境に入ってきました。東大薬学部の1期生は7人しかおりませんが、その子たちもメディセレ直前講習会に参加してくれ、本格的な国家試験勉強モードに入っています。昨年末には保護者会も実施し、心理カウンセラーとして「受験生を持つ親御さんの心得」をお伝えしたので、サポート体制は準備万端です。あとは本人次第です(笑)。今の学生には、勉強方法が分からない子が増えています。メディセレでは勉強方法から指導しているのですが、勉強をやっているのに、結果がついてこない。そんな子が激増しています。それは「勉強」ではなく、「作業」になっているからです。知識は、インプットだけで終わらせず「アウトプット」できるかどうか重要です。このアウトプットのスキルは薬剤師になってからも必要です。

今、2007年からの新司法試験で弁護士の合格者が増えています。人数が増えた分、就職率が下がり、10年もかかって弁護士になったのに年収が300万円という人が激増しています。また、公認会計士も国策として2006年から合格者が増えたことから、顧問料の相場が半額になり、給与が減りつつあります。そう、昔のように資格さえあれば生きていける時代ではないのです。では、そんな中でも2,000万円の高給をゲットしている弁護士や公認会計士とはどんな人なのでしょう?

経営コンサルタント業の社長は、「景気がよかったときはMBAホルダーというだけで未経験者でも採用したけど、景気が悪くなってからは実務経験があるかどうか採用基準になり、資格を持っているだけでは採用しない」と言っています。

そんな中、6年制薬学生が卒業します。1期生の就職は、驚く速さで全員が内定をいくつももらう状態でした。それには、「空白の2年」があったという背景もあります。5年経った頃にはどうなっているのでしょうか。もしかして、弁護士や公認会計士のようにないとは言いきれません。万一そんな状態になっていたとしても、自分の勉強した医療の知識をきちんと患者さんに「アウトプット」するスキルを身に付けた薬剤師はひっぱりだこになるでしょう。そして、実務経験をたっぷりつんだ薬剤師が重宝されます。さあ、生き残れる薬剤師になりましょう!

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子